

2025 年 1 月 18 日に大阪梅田で開催された北摂・北河内インスリンポンプ勉強会に参加してきました。北摂からは高槻や吹田でご活躍の先生方が、北河内からは枚方で熱心にインスリンポンプ治療を実践されておられる先生方が参加されました。この「北摂・北河内インスリンポンプ勉強会」は、まだまだ認知度が低い、しかし 1 型糖尿病患者さんにとって最も良い血糖コントロールが見込める“インスリンポンプ治療”について専門的知識を習得することが出来る大事な会です。いわゆるクローズドの会の形式を取っており、実際にインスリンポンプ治療に携わっている糖尿病内科専門医、内分泌代謝科（小児科）専門医の方のみ参加され、日々の診療で困っていることや、その対応策について講師の先生から具体的なアドバイスを頂くことが出来る貴重な会です。

ここで“インスリンポンプ治療”についてご説明します。

世の中には、糖尿病患者さんが溢れています。皆様の想像する、いわゆる糖尿病患者さんって、食べ過ぎ・飲みすぎ・

運動しなくなって若い頃より 20 kg太っちゃった中～壮年の方々が、職場検診で「あなた糖尿病ですよ、食事と運動で痩せなくてはなりません。飲み薬も必要ですね。」とお医者さんに言われて凹む、そんなイメージではないでしょうか？このように、肥満・加齢・運動量低下を背景として糖尿病になってしまった方の多くが2型糖尿病と診断されます。



ところが、小学生の時に（成人発症もあります）、風邪などのウイルス感染を契機に急激に血糖値が上昇し、糖尿病性ケトアシドーシスで体調が悪化し、入院治療が必要なほど重症化する糖尿病があります。多くは糖尿病性ケトアシドーシスを乗り越ってもインスリン分泌が回復せず、生涯にわたって1日4回のインスリン自己注射（腹部に自分で針を刺してインスリンを注射する）が必要となります。このタイプの糖尿病を1型糖尿病と言います。1型糖尿病の治療はインスリン治療が大前提です。そして、どのインスリンも腹部に自

分で針を刺して注射する製剤しかありません。飲むインスリン製剤、吸入するインスリン製剤など、これまで多くの学者先生が実用化に挑戦しましたが、いずれも失敗に終わっています。近年、SGLT2 阻害剤の一部の飲み薬が1型糖尿病で保険適応となりました。しかしそれはインスリン治療の補助で使えるというだけであって、生きている限りインスリン治療をやめることは不可能です。

そんな過酷な1型糖尿病患者さんにとって、腹部にインスリンポンプという医療機器を常時装着し、24時間かけてゆっくりインスリンを注入し、しかも血糖値に従って微細にインスリン注入量を調節して、良好な血糖コントロールが可能となるインスリンポンプ治療は、医療の進歩を実感できる素晴らしいインスリン治療の1つです。



インスリンポンプ治療に使用する医療機器「ミニメド™780G システム」(日本メドトロニック株式会社 H.P.より引用)

主任部長は 1 型糖尿病のインスリンポンプ治療に熱心に取り組んでいる糖尿病内科専門医の一人です。

主任部長、子育て優先期の 30 歳代に担当した 1 型糖尿病患者さんの血糖コントロールに非常に苦労しました。まるでジェットコースターのように高血糖と低血糖が繰り返されるのです。患者さんは高血糖もさることながら、突然起こる低血糖にとっても苦しんでおられました。「一生懸命インスリンを打っているのに、食後に血糖値が 300 mg/dL まで上がります。」「どうして急に低血糖になるのでしょうか？低血糖はとてもしんどいです。急にドキドキして手が震えて冷汗が出ます。」主任部長は、インスリンポンプ治療の存在を勿論知っていましたが、当時はそれを患者さんに提供できる実力と経験がありませんでした。本当に悔しくて申し訳なくて、忸怩たる思いでした。いつか必ず、インスリンポンプ治療を必要としている患者さんに、安心安全・有益なインスリンポンプ治療を当たり前提供できる医師になる、それは主任部長の悲願でした。そして今、それが実現できているのが本当に嬉しいです。

日本の 1 型糖尿病患者さんの新規発症率は 10 万人 / 年あたり 2.25 人（糖尿病ネットワークより引用 <https://dm-net.co.jp/calendar/2018/028562.php>）と報告されています。この数字からも分かるように希少疾患ですので、患者さんはどこに行ったら 1 型糖尿病を良く知る専門医の先生に巡り合えるのか、病院探しに苦労されることもしばしばです。当科には、現在 100 名の 1 型糖尿病患者さんが定期通院されており、1 型糖尿病のインスリンポンプ治療も自信を持って患者さんにご提供させて頂いております（当院公式ホームページをご参照下さい）。

これからも主任部長は、あっという間に進化するインスリンポンプ治療に後れを取らぬよう、日々、知識のアップデートに努めます。皆様、どうぞ安心して市立ひらかた病院糖尿病・内分泌内科を受診して下さいね。



お写真は、大阪梅田に新しく建てられた
“KITTE 大阪” の2階にて、徳島県のゆる
キャラ“すだちくん”と2ショット頂
きました！

大阪梅田はどんどん開発されて、まるで
見知らぬ町のようにでした。

インスリンポンプ勉強会に参加した先
生と KITTE 大阪でイタリアンディナー
をご一緒できたのが嬉しかったです。